

ゆっくるも通信

令和5年10月20日 第2号

留萌市教育委員会

教育支援センター「ゆっくるも」

カニ釣り体験してきました！(自然体験活動)

9月13日水曜日、体験活動（自然体験活動）「黄金岬海遊び」を実施しました。

これは、「ゆっくるも」に通う子どもたちの集団生活への適応を図るために、子どもたち同士の交流・集団活動を通して、規律ある集団行動・社会性・公共心などを養うことを目的として計画しました。

今回参加した子どもたちは、小学生2名、中学生3名・計5名です。



午前9時半に教育委員会の車にみんな乗って、午前10時に目的地である黄金岬海浜公園に到着。みんなカニ釣り用のエサを海に垂らしてカニ釣りをしました。中には、10匹近くのカニを釣ることができた子や、4~5cmの大きなカニを釣ることができた子もいて、とても喜んでいました。

11時頃から「海のふるさと館」に場所を移動し、中の展示物を見たり、持参したおやつを食べながらおしゃべりをしたりなどして、楽しいひとときを過ごしました。普段は「ゆっくるも」の狭いところでの活動が多かったので、自然の中で生き生きと活動する子どもたちの姿はとても新鮮でした。

▲ ▲

留萌市教育支援センター「ゆっくるも」在籍児童生徒数

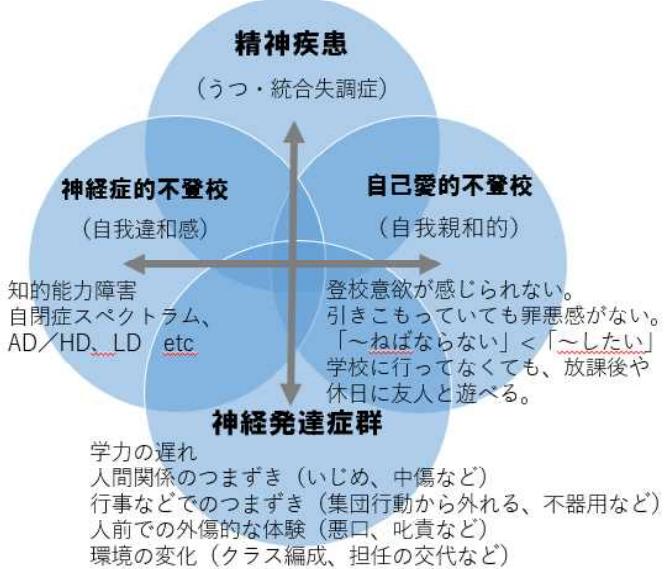
学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
男	1			1	1		1	1		5
女					1	2	1		3	7
計	1	0	0	1	2	2	2	1	3	12

R5. 10. 20現在

学校に行けない子どもたちの 「学校復帰」までの「第3の居場所」として！

「ゆっくるも」に通級している子どもたちはすべて「学校に行きたくても行けない」のですが、その様態は一人一人違っています。「ゆっくるも」に来た子どもたちと対面し、どうして学校に行けなくなつたのか、学校に行けなくなつてからどう過ごしてきたのか、学校に行きたいという気持ちは今どれくらいあるのか、今抱えている不安は何なのか等を確認していきます。その上で、その子に応じた支援の方向性を指導員間で協議していきます。なかには、学習すること自体がその子にとっての登校刺激となり、不安感を増長させてしまう場合もあるので、そうした子については、「ゆっくるも」において指導員とコミュニケーションやゲームをしたり、体育館で身体を動かしたりして、先ずは心の元気回復に努めるようにしています。

不登校の4要因



▲「不登校の理解と支援」(池田久剛著)より

添のもと、放課後登校・別室登校からスタートして、再登校を目指しています。また、今まで学校には行けなかつたけれど、そっと背中を押してあげることによって、学校に行けるという子どももいます。こうした子どもには、指導員の付添のもと、放課後登校・別室登校からスタートして、再登校を目指しています。

右の写真の子どもは、「ゆっくるも」に入級していますが、「ゆっくるも」の施設の方には一度も来ていません。指導員の付添があれば学校に行けるということがわかったので、放課後の別室登校から始め、この次は職員室に挨拶に行くなど、本人の意志を確認しながら次のステップに進んでいきます。先日は別室で給食を食べたり、校長先生や仲の良かった子どもと一緒に遊んだりしたあと、自分の教室へ行って他の子どもたちと一緒に授業を受けることもできました、この子については、今後も「ゆっくるも」の施設に通わせるのではなく、一緒に登校して学校に慣れさせ、やがては一人で学校に行けるように支援していきたいと考えています。

平成28年に文科省から公布された教育機会確保法にもあるように、「不登校の支援については、登校という結果のみを目標にするのではなく、社会的に自立できるように支援をしていく」ことがとても重要です。「ゆっくるも」でも学校に行けない子どもたちへの学習支援・適応支援を行っていくことで、家でも学校でもない「第3の居場所」としての機能を果たすとともに、一人一人の様態に応じた「学校復帰」を目指す支援も併せて行っていきたいと考えています。



■ 学校に行きたくても行けない子どもたちのことについて、教育支援センター「ゆっくるも」にいつでもご相談ください。(TEL 090-9005-5338)